



Member's Open Space

美唄に美唄山があっても 不思議はないけれど

●美唄歯科医師会会員
雨田 実



何も今更と思わないこともないが、30歳近くになって、美唄に住むようになって50年を数える。いつおむかえが来ても不思議のない年齢をむかえて、今年初めて美唄に美唄山標高987米のあることを知った。美唄川の源流部にあって登山ルートは奈井江町から一本あるだけという。知っている人は知っていたであろうが、殆ど知られていなかったことは確かである。

美唄では特別の人達は別格として日帰り程度の登山としては浦臼町が登山口になっているピンネシリ（アイヌ語で男山を意味し、女山を意味するマチネシリとともに、道内各地にあるが）がある。美唄の人達のいう場合は、地勢根尻山をピンネ、隈根尻山をマチネと呼び、6月の終わりの日曜日を毎年山開きと定め、普段登山にまるで縁のない人達までこの日一日だけは参加するといひ、近年は札幌、江別、遠く函館、本州から（これは、この付近が故郷の人達らしい）、そして美唄方面からも多くの人に参加する（私ごとで恐れ入るが、2年前に山開きに参加した時、最年長者として最年少者の6歳の子供と共にテープカットを命じられたまでは良かったが紅白のテープを胸に付けてト

ップ集団の先頭に立たされたのには大変に参ったことを思い出す）。そのようなことで、美唄市内は元より付近の小、中、高の校歌にも、石狩川とピンネ、マチネは相当数の学校の校歌の中に歌われている。しかるに美唄山は、その名前さえ知られていなかったのが現実であった。

先般の美唄公報通巻1,000号に「美唄山登山道づくりにあなたの力を」とのボランティア募集の見出しで、「美唄川源流部にある美唄山は、奈井江側からの登山道が一本あるだけで、美唄側からの登山ルート造成は山岳愛好家の念願となっていました。このほど美唄山岳会のほか、陸上自衛隊美唄駐屯地、市民ボランティアなど延べ300人で新ルート造成を計画しています。20世紀最後の大事な、皆さんの力をぜひ、お貸し下さい。

とき：6月19日(土)20日(日) 集合：5時中央公園

奈井江側、美唄側から同時に作業し、2日間で完成予定、完成すると、片道約2時間半の中級者向けコースとなり、高山植物が多く、頂上に立つと眼下に樹海が広がる。途中にある滝も魅力」とのこと。

今を去る80年前の大正8年9月（1919年）沼貝

村青年団の登山隊が、美唄山に一泊登山をしたという。参加者は青年団25名、沼貝小訓導2名、案内者として加わった土本弥三郎は18年前の明治34年陸地測量部が美唄山山頂に三角点を設置したとき標石や測量資材運搬の一員として加わった実績を買われての参加という。9月2日午前5時30分、各自6食分の食料の他、露営用具、ナタ、ノコを携帯して出発した。熊に備え、刀剣、村田銃を携帯している人もいたという。二の沢で昼食をとり、美唄川本流にコースをとり、10時30分、四の沢通過、七の沢あたりから苔が多くなり、わらじの破れが多く苦勞したという。11時30分、三の滝で小休止、その後、小さな滝の連続する沢筋を進み、午後2時30分、二股を通過そこから深い笹の中を悪戦苦闘しながら全員が無事頂上にたどり着いたのは午後5時30分のことであったという。明るいうちに目的地に到着できなかったらと指揮者は随分と苦勞したという。その夜は、白樺の大木の下で火を囲んで野営し、翌日登頂記念に木標を建てた後で、持参したカラマツの苗木を植樹し、午前6時頂上をあとにしたという。帰りは、ゆっくりコースを確認しながら、山を下り、我路市街地に

帰着したのは、午後4時30分であったという。

北海タイムスでは、これらの模様を伝え、後日改めて「空知の秘境、美唄山探検」の見出しで7回にわたり登山記を掲載したという。その後どうして美唄山に登山する人がいなくなったのか。登る人がいなくなると登山ルートは自然に時と共に消えてしまうといわれるが、この度、美唄山岳会、陸上自衛隊美唄駐屯地、市民ボランティア等300人の熱意によって、立派な登山ルートの完成は成就すると思われるので、出来得るだけ早い時期に(陽の長いうちで余り暑くならない時期に)今年のうちには山開きをも盛大に挙げていたいただきたいことを願って止まない。樺戸山脈山開きの対をハッテというわけでもないけれど、目立たないことはしたがる人達の多い昨今、多くの熱意によって折角の立派な登山コースが出来上がっても佛作って魂入れずのそしりのないことを祈念したい。

